

機械器具 74 医薬品注入器
一般医療機器 単回使用輸液容器 35127000

アリメバッグ

（D E H P可塑剤フリー）

再使用禁止

【禁忌・禁止】

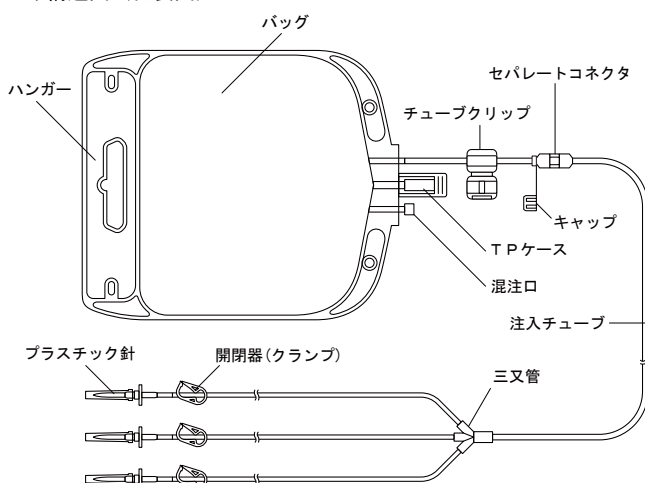
1. 再使用禁止

【形状・構造及び原理等】

1. 形状・構造

本品は、高カロリー輸液に用いられる輸液バッグである。

1) 構造図（代表図）



2. 付属品

- (1) 通気針（品種により付かない仕様もある。）

2. 材質

バッグ	エチレン酢酸ビニル共重合体
注入チューブ 三又管	ポリ塩化ビニル
プラスチック針 セパレートコネクタ	アクリロニトリル-ブタジエン- スチレン共重合体
混注口	イソブレンゴム

ポリ塩化ビニルの可塑剤はトリメリット酸トリ-2-エチルヘキシルである。

【使用目的又は効果】

脈内輸液セットで投与する輸液混合物を入れるために用いるプラスチック製の容器である。本品は単回使用である。

【使用方法等】

1. 使用方法

- 1) 開閉器（クランプ）を閉じます。
- 2) 混注の終わった輸液剤容器にプラスチック針と通気針を刺通します。
- 3) 輸液剤容器をハンガーに吊します。
- 4) 開閉器（クランプ）を開きます。
- 5) バッグ内に必要量の輸液剤を注入します。
- 6) バッグを軽く押して輸液剤容器の方へ空気を送り出し、バッグ内の空気を抜きます。
- 7) チューブクリップを折り曲げて強く押して注入チューブを密封し、不要部分を切除します。
- 8) ラベルに必要事項を記入してバッグに貼付します。
- 9) T P ケースを開き、輸液セットのびん針を真っ直ぐいっぱいの深さまで刺通し、輸液を行います。

＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. 輸液剤の容器を途中で交換するときには開閉器（クランプ）を閉じて行ってください。
2. バッグへの必要量の輸液剤注入が終わったら、バッグ内の空気を抜くため空になった輸液容器一つに接続されている開閉器（クランプ）を開いたままで、残りの開閉器（クランプ）を閉じてください。
3. セパレートコネクタ付きの場合はチューブクリップを閉じて密封し、セパレートコネクタをねじって外し、キャップを取り付けてください。
4. セパレートコネクタを取り外すとバッグ内部汚染のおそれがあるので、チューブクリップを確実に閉じるまでは絶対にセパレートコネクタを外さないでください。
5. プラスチック針を真っ直ぐ刺通してください。〔コアリングによるバッグ内異物の原因になります。〕
6. 注入チューブと硬質部材（プラスチック針等）との接合部付近で開閉器（クランプ）を操作しないでください。〔注入チューブが噛みこまれ、破損のおそれがあります。〕
7. 注入チューブとコネクタの接合部には過度に引張る、押し込む、折り曲げるような負荷をかけないよう注意してください。〔注入チューブの抜け、破損、伸び等のおそれがあります。〕

【使用上の注意】

1. 重要な基本的注意

- 1) 本品は合成樹脂製品のため、温度が低下するにつれて強度が低下することから取扱いには注意すること。〔破損のおそれがある。〕
- 2) 調剤済みの輸液剤は出来る限り短時間内に使用を完了すること。
- 3) 輸液剤注入済みバッグを保管する場合はバッグの破損を防ぐため重ねないこと。
- 4) 輸液を行うまではT P ケースを開かず冷暗所に保管すること。
- 5) 輸液中は定期的に輸液剤量を確認し、確実に輸液されていることを確認すること。
- 6) 使用中は本品の破損、接続部の緩み、薬液漏れ、空気の混入及び詰まり等について、定期的に確認すること。
- 7) 製品の接続部等にひび割れが確認された場合は、直ちに新しい製品と交換すること。
- 8) 接続部への薬液の付着に注意すること。〔接続部の緩み等のおそれがある。〕

【保管方法及び有効期間等】

1. 保管方法

水ぬれに注意し、直射日光、高温多湿を避けて保管すること。

2. 有効期間

包装の使用期限欄を参照のこと。
有効期間：滅菌後3年（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売（お問い合わせ先）
ニプロ株式会社
電話番号：06-6372-2331（代表）

製造
ニプロ株式会社



ニプロ株式会社